

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 半田市立亀崎中学校

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒475-0024

愛知県半田市亀崎高根町5丁目40番地

E-mail kame-j00@kamezaki-j.ed.jp

Website http://www.kamezaki-j.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 263名 女子 251名 合計 514名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は、「未来の亀崎を支えよう ～地域を愛し、地域を支える生徒を目指して～」を活動テーマとして、ESDを地域に伝わる文化や伝統、地域に携わる人々の思いから地域の魅力と課題を見出す活動と捉えた。そして、ESDの実践を通して、地域を愛し、将来にわたって地域を支える生徒を育成することを目標としてESDの活動に取り組んでいる。

① 亀崎・有脇の誇れるものを追究しよう(実施学年：1年)

地域の歴史、文化、自然、およびそれらを活用した地域の様々な取組について、クラスごとにテーマを設定した。そして、地域の文化財、地域団体の拠点を訪問して調査活動を行った。調査結果は紙面での発表や学級での企画発表といった形で、学校祭の場で他学年の生徒や保護者などに向けて発表した。また、地域の方にも活動を伝えるために、調査結果をまとめたレポートを地区の公民館にも展示した。

② 職業人の話を聞く会(実施学年：2年)

校区の特別養護老人ホームで勤務されている方を講師として招聘し、働くことの意義や地域を支えることへの思いなどを話していただいた。職場体験学習

を控える時期に、身近な場所で働いている方の話を聞くことができ、次の活動に対する意欲を高めることができた。

③ 文化財絵画制作学習(実施学年：全学年)

亀崎潮干祭に参加して感じたことをテーマに絵画を制作し、地域の歴史や文化に関する興味や関心を高めた。そして、制作した絵画を絵画写真コンテストに応募することで、地域や潮干祭を盛り上げることに貢献した。

④ 地域環境保全活動(実施学年：全学年)

潮干祭の前に、地域全体の清掃や環境整備作業を行った。自分たちも地域とともに潮干祭をつくり上げているという気持ちを育むとともに、改めて潮干祭や自分たちの町のことを見つめる良い機会となった。

⑤ 先輩の話を聞く会(実施学年：全学年)

亀崎中学校出身の方で、国内外を問わず活躍している方を講師として招聘し、外から見たふるさとの良さ、後輩に期待する思いなどを話していただいた。



< ①校外調査活動のようす >



< ①公民館に掲示されたレポート >



< ③絵画制作のようす >



< ④地域環境保全活動のようす >

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域学習)		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

### ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

ユネスコスクールの初年度にあたり、まず、教育課程の中にESDを明確に位置づけ、組織的な年間指導計画（ESDカレンダー）を学習指導部が中心で作成をし、全職員で共通理解を図った。総合的な学習の時間を中心とした教科横断的な指導計画となるよう、指導内容の精選や評価方法を話し合った。また実践の際には、アクティブラーニングの積極的な導入や学級や学年の枠を超えた活動も取り入れている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

学習指導のあり方や内容について計画・立案する学習指導部会において、各学年が取り組むESDの活動について検討。そこで検討された内容について、各学年の担当教員で構成する学年会で吟味し、年間計画を立て、活動につなげていった。年度末には、活動内容についての振り返りを行い、意見を集約。学習指導部会で集約された意見をもとに、次年度の活動内容について検討した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

年度末に生徒を対象にアンケートを実施。成果として、学習を通して自分たちの地域に対する興味・関心が学習前よりも高まったことや、祭礼に対して誇り・愛着をもつ生徒が増加したことが挙げられる。一方、学習内容を自分の未来と結びつけて考えられる生徒がまだ少なく、つまり、自分たちが未来の亀崎を支えていこうという気持ちが十分育まれていないことが課題として挙げられる。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

学校祭にて、生徒のレポートを掲示して紙面発表を行った。また、代表生徒による保護者や地域の方へのプレゼンテーションや紙面発表に使用したレポートを公民館に掲示する機会も設けた。学校ホームページには、生徒が活動する様子を積極的に掲載した。これらの発表や発信を通して、本校のESDの活動をより多くの人に知ってもらうことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

地域コミュニティである公民館に、生徒が活動内容や成果をまとめたレポートを掲示することで、本校の活動について地域に情報提供する機会をつくることができた。

大学等が主催するユネスコスクール指導者研修会に本校職員を派遣し、県内外のユネスコスクールの教職員と交流を図った。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

校区にある小学校2校がユネスコスクールに加盟しており、3校連携して児童・生徒の交流を行った。今年度は、年に数回それぞれの学校に代表児童・生徒が集まり、合同であいさつ運動を行った。

また、校区内の幼保小中の教職員が集まり、各校のユネスコスクールとしての取組について情報共有する場を設けた。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

総合的な学習の時間における活動内容について、今までの内容を吟味し、より生徒が主体的に活動できる内容となるように、カリキュラムを検討し直すことができた。

祭礼に参加する生徒が増加したことや、地域のボランティア活動に参加する生徒が増加したことから、生徒が以前よりも地域に対して興味・関心を抱くようになったことが分かる。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

活動の概要に示した活動については次年度も継続して取り組んでいく。

1年生の総合的な学習の時間について、本年度は地域学習と福祉に関する学習の二本立てで計画したが、次年度は地域学習のみを取り扱う予定。今年度よりも時間に余裕が生まれるので、校外学習を行ったりゲストティーチャーを招聘したりする機会を今年度以上に設けていきたい。

また、紙面発表だけでなく、生徒が実際に地域の方に本校の取組を発表したり、ユネスコスクール交流会等で発表したりする機会を設けたい。